

<p><b>9月27日</b> <b>(日)</b></p> <p>詩編 51編</p>	<p>「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください」(12節)。ダビデ王は、預言者ナタンの厳しい叱責により、自らの「血を流した罪」(14 節:口語訳)と向かい合わされた。私たちが真に厳しく裁く方は、私たちが真に救う方。私たちが自らの罪とまっすぐ向かい合わされるところに、十字架による新しい創造(Ⅱコリント 5・17)が起こされていく。</p>
<p><b>28日</b> <b>(月)</b></p> <p>詩編 52編</p>	<p>「力ある者よ、なぜ悪事を誇るのか」(3節)、「お前は善よりも悪を／正しい言葉よりもうそを好み／人を破滅に落とす言葉、欺く舌を好む」(5-6節)。すべての「力」の源泉は神にある。すべての「力」は神に向けて用いるもの。ところが私たちは「力」を手にとると、たちまち「自分を神にする」大きな勘違いをする。主よ、力を正しく用いることを今日教えてください。</p>
<p><b>29日</b> <b>(火)</b></p> <p>詩編 53編</p>	<p>「神は天から人の子らを見渡し、探される／目覚めた人、神を求める人はいないか、と」(3節)。信仰が失われ、正義が見失われた世界の中に、神は「目覚めた人」を探し求める。「何をしてほしいのか」と尋ねた主イエスに、バルテマイは「主よ、見えるようにしてください」と答えた(マルコ 10 章)。今日も十字架を背負い進まれる主の背中を見失うことがないように。</p>
<p><b>30日</b> <b>(水)</b></p> <p>詩編 54編</p>	<p>「神よ、御名によってわたしを救い／力強い御業によって、わたしを裁いてください」(3節)。わたしが救われるためには、神の愛に裁かれなければならない。何が正しく、何が間違っているのかを、十字架の主に教えていただき、わたしの貧しい愛、卑劣さ、貪欲が裁かれる必要がある。主イエスがあらわされた神の愛のみが、わたしを真に裁き、真に救ってください。</p>

<p><b>10月1日</b> <b>(木)</b></p> <p>詩編 55編</p>	<p>「あなたの重荷を主にゆだねよ／主はあなたを支えてくださる。主は従う者を支え、とこしえに動揺しないように計らってください」(23節)。「重荷」が肩に食い込み、疲れが身体にたまってくると、心がすさみ、笑顔や賛美が失われていく。そのわたしの「重荷」を引き受け、背負ってくださる方の呼びかけに素直に心を開き、主に従う信仰をいただくことができるように。</p>
<p><b>2日</b> <b>(金)</b></p> <p>詩編 56編</p>	<p>「あなたはわたしの嘆きを数えられたはずですが。あなたの記録にそれが載っているではありませんか。あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください」(9節)。主はわたしの嘆きを数え、わたしが流す涙を蓄えてくださっている。悲しみの中に天を見上げ、海のかなたを見つめるほかない時、「命の光の中に歩かせてくださる方」(14節)を思い起こさせてください。</p>
<p><b>3日</b> <b>(土)</b></p> <p>詩編 57編</p>	<p>「いと高き神を呼びます／わたしのために何事も成し遂げてくださる神を。天から遣わしてください／神よ、遣わしてください、慈しみとまことを」(3-4節)。「言(ことば)は肉となって私たちの間に宿り…恵みと真理とに満ちていた」(ヨハネ 1:14)。主イエスは私たちのために天から遣わされた。私たちの救いのために一番必要な「赦し」を成し遂げてくださる方として。</p>
<p><b>4日</b> <b>(日)</b></p> <p>詩編 58編</p>	<p>「人は言う。『神に従う人は必ず実を結ぶ。神はいます。神はこの地を裁かれる』」(12節)。「滅ぼさないでください」に合わせて(1節)。どんな曲調で賛美してほしいのかが記されている。同じ曲で異なる歌詞を載せて賛美することは今の私たちにも受け継がれている。神に献げる自由な賛美を見る。私たちもその賛美に心を寄せて主告白ができますように。</p>